# DELPHION



# Select CR



RESEARCH Log Out Work Files Saved Searches My Account

PRODUCTS

INSIDE DELPHION

Search: Quick/Number Boolean Advanced Derwent

# The Delphion Integrated View

Get Now: PDF | File History | Other choices Tools: Add to Work File: Create new Work File Go to: Derwent View: INPADOC | Jump to: Top 

> JP2003112054A2: METHOD FOR IMMORII IZING PHOTOCATALYST Title:

MILI TII AYERED PHOTOCATALYST CARRIER

P Derwent Title: Immobilization method of photocatalyst for producing layered photocatalyst support, involves forming intermediate layer on base

material using solution of specified element and photocatalyst layer using

solution of titanium (Derwent Record)

JP Japan

> TKind: A2 Document Laid open to Public inspection i

FInventor: YONEMURA MASANAO: NOJIMA SHIGERU:

Assignee: MITSUBISHI HEAVY IND LTD

News, Profiles, Stocks and More about this company

Published / Filed: 2003-04-15 / 2001-10-03

> JP2001000307060

Number: 

Advanced: B01J 35/02; B01J 37/02; B05D 1/18; B05D 7/24; B32B 9/00; C03C 17/34; C23C 20/08; C23C 28/00; C23C 28/04; C23C 30/00; Core: B01J 35/00; B01J 37/00; C23C 20/00; more...

IPC-7: B01J 35/02; B01J 37/02; B05D 1/18; B05D 7/24; B32B 9/00;

C03C 17/34; C23C 20/08; C23C 28/00; C23C 28/04; C23C 30/00;

2001-10-03 JP2001000307060 Priority Number:

> PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a method for Abstract:

immobilizing a photocatalyst firmly deposited even on glass or stainless steel, having a small specific surface area and high photocatalytic activity, and to provide a multilayered photocatalyst carrier.

SOLUTION: The method includes a process of forming an intermediate layer to immerse the in a solution where at least one kind of element selected from 4 to 15 groups is present and then to take out the substrate to dry, and a process of forming a photocatalyst layer to immerse the substrate subjected to the process of forming the intermediate layer in a solution where titanium is present and then to take out the substrate to dry.

COPYRIGHT: (C)2003,JPO

Family: None

DERABS C2003-692155 Other Abstract

Info







Nominate this for the Gallery...



Copyright © 1997-2006 The Thor

Subscriptions | Web Seminars | Privacy | Terms & Conditions | Site Map | Contact U

# (19)日本国特許庁 (JP)

(51) Int.Cl.7

# (12) 公開特許公報(A)

FΙ

(11)特許出願公開番号 特開2003-112054 (P2003-112054A)

テーマコード(参考)

(43)公開日 平成15年4月15日(2003.4.15)

B 0 1 J	35/02			B 0 1	J	35/02			J	4 D 0 7 5
	37/02	301				37/02		3 0	1 C	4F100
B 0 5 D	1/18			B 0 5	D	1/18				4G059
	7/24	303				7/24		3 0	3 B	4G069
B32B	9/00			B 3 2	В	9/00			Α	4 K 0 2 2
			審查請求	未請求	請求	項の数 6	OL	(全:	9 頁)	最終頁に続く
(21)出願番	号	特顧2001-307060(P2	001-307060)	(71) 出	以以	00000	6208			
						三菱加	工業株	式会社		
(22)出顧日		平成13年10月3日(2001, 10.3)				東京都	1139千8	区丸の	内二丁	目5番1号
				(72)発	明者	* 米村	将直			
										四丁目6番22号 研究所内
				(72)発	明者	野島	繁			
										四丁目6番22号
				(74) f	理人	10009	9623			
						弁理士	. 奥山	尚一	(4)	2名)
										最終頁に続く

(54) [発明の名称] 光触媒の固定化方法および多段層型の光触媒担持物

識別配号

# (57)【要約】

触線活性を維持することができる光触線の固定化方法および多段開型の光絶線担持物を提供する。 【解決手段】 4~15族に頂する群から選ばれた少なくとも、種の元素が存在する溶液に基材を浸漬せせた。 遠越材を取り出して乾燥さる中間開形成工程と、チタンが存在する溶液に映中開彫形成工程を軽力基料を浸漬させた後、該基材を取り出して砂能せせる光絶媒履形成工程と含んでなることを特徴とする。

【課題】 比表面積の小さいガラスやステンレス等の基 材に対しても強固に付着させることができ、かつ高い光

特開2003-112054

#### 【特許請求の範囲】

[請求項]] 4~15族に属する際から選ばれた少な くとも1種の元素が存在する溶液に基材を浸漬させた 後、該基材を取り出して乾燥させる中間層形成工程と、 チタンが存在する溶液に該中間層形成工程を経た基材を 浸漬させた後、該基材を取り出して乾燥させる外触媒層 形成工程と、を含んでなることを特徴とする光触媒の固 定化方法。

【請求項2】 上記中間層形成工程および/または上記 光触媒形成工程における乾燥は、温度0~100℃で行 10 うことを特徴とする請求項1記載の光触媒の固定化方 注

[請求項3] 上記中間層形成工程を少なくとも1回行った後、上記光触媒層形成工程を行うことを特徴とする 請求項1または2記数の光触媒の固定化方法。

[請求項4] 4~15歳に属する群から選ばれた少な くとも1種の元素が存在する溶液に基材を浸漬させた 後、譲載材を取り出して乾燥させ、さらに、チタンが存 在する溶液に該基材を浸漬させた後、該基材を取り出し て乾燥させることにより得られる多段層型の光始蚊担持 20 mm

[請求項5] 基材と、該基材上に形成された少なくと も1層の中間層と、該中間層上に形成された酸化チタン を含む光触媒層と、を含むことを特徴とする多段層型の 光触媒担持物。

【請求項6】 上記基材は、比表面積の小さいガラス、 ステンレスまたは樹脂であることを特徴とする請求項5 記載の多段層型の光触媒担持物。

#### 【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、光触媒の固定化方法および多段層型の光触媒担持物に関する。

#### [0002]

【従来の技術】光触媒は、紫外線等の光の照射を受け て、NOXや炭化水素等を酸化分解するとともに、微生 物等も分解する。そのため、このような光触媒の浄化作 用や抗菌作用等を利用した装置や製品等が開発されてき ている。現在、光触媒として一般的に用いられているア ナターゼ型のTiO2は、主に、粉末状として存在して いる。粉末状の光触媒を基材に担持させた場合、付着強 40 度が低いという問題があるため、パインダーを添加する ことが提案されている。しかし、パインダーの中には光 触媒活性を低下させるものもあり、添加できるバインダ 一は制限されるという問題があった。また、付着強度を 向上させるため、基材をチタンのアルコキシド溶液に浸 漬させた後、高温で焼成して、酸化チタンを基材に担持 する方法が提案されている。しかし、比表面積の小さい ガラスやステンレス等の基材に対しては、付着強度が低 いという問題があった。

[0003]

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、上部の問題 漁を鑑み、比表面積の小さいガラスやステンレス等の基 材に対しても独固に付着させることができ、かつ高い光 陸媒活性を維持することができる光触媒の固定化方法お よび多段層型の光触媒担持物を提供することを目的とす る。

#### [0004]

(2)

【課題を解決するための手段】本発明に係る光触媒の固定化方法は、4~15版に関する群から選ばれた少なくとも1種の元素が存在する系形に基材を受づせた後、該基材を取り出して乾燥させる中間層形成工程と、チタンが存在する溶液に該中間層形成工程と、チタンが存在する溶液に該中間層形成工程と、チタンが存在する溶液に変して、基板と光触媒層との間に、比表面質が大きく、光低活性の低では含与ないや問題を設けることにより、比表面積の小さいガラスやステンレスなどに対しても、光触媒類を強固に付着させることができ、高い光触媒活性を解することができ、高い光触媒活性を解することができ、高い光触媒活性を解することができ、高い光触媒活性を維持することができ、高い光触媒活性を維持することができ、高い光触媒活性を維持することができ、高い光触媒活性を維持することができ、高い光触媒活性を維持することができ、高い光触媒活性を維持することができ、高い光触媒活性を維持することができ、高い光触媒活性を維持することができ、高い光触媒活性を推進することができ、高い光触媒活性を維持することができ、

【0005】上記中間層形成工程および/または上記光 触媒形成工程における乾燥は、約0~100℃、好まし くは常温(10~30℃)で行うこともできる。これに より、基材の劣化を防止できるとともに、光絶媒の固定 化処理を簡便にできるため、製造コストを向上できる。 また、上記中間層形成工程を少なくとも1回行ったを、 上記光触媒解形成工程を分ちくとも1回行った。 に、中間層を多層にすることで付着強度をより向上できるとともに、光触媒層を多層にすることで持強強をより向上できるとしまるとこともできる。

[0006] 本発明に係る多段層型の対域維囲持物は、 4~15族に属する群から選ばれた少なくとも1種の元 業が存在する溶液に基材を浸漉させた後、該基材を取り 出して乾燥させ、さらに、チタンが存在する溶液に該基 材を浸漉させた後、該基材を取り出して乾燥させること により鳴られることを特徴とする。

【0007】また。本発明に係る多段限型の光始候担持物は、基材と、該基材とに形成されたかなくとも1層の中間層と、該中間層上に形成された酸化チタンを含む光触媒層とからなることを特徴とする。上記基材は、比表面積の小さいガラス、ステンレスまたは樹脂とすることができる。

#### [8000]

(禁卵の実施の形態) 以下、本発卵の実施の形態について、詳細に説明する。本将別は、労す・開肥形成定程として、中間層形成溶液に基材を浸漬させた後、この基材を取り出して乾燥させる。中間層形成溶液としては、4~15 底に質する群から直域はれか少なくとも1 種の元素が存在する溶液を用いることができる。特に、チタン・ゲルコニウム等の4 族、ホウ素等の13 族、ウイ素等50 の14 族、リン等の15 族またはこれらの組み合わせが

(3)

より好ましい。また、上記元素のアルコキシド溶液また はツル溶液を用いることが好ましく、特に、メチル基、 エチル基、プロビル基またはブチル基等を有すアルコキ シドがより好ましい。

[0009] 基材は、特に限定されないが、基材の表面に凹凸が少ないガラス、ステンレスまたは樹脂に対しても適用することができる。特に、比表面前が約0.01~0.1 m²/g程度の小さい基材に対しても、良好な付着強度を得ることができる。乾燥は、特に限定されないが、約0~10℃、好ましくは約10~30℃の常10流で、約1分~24時間に渡って風乾させるのが好ましい。約1分~24時間に渡って風乾させるのが好ましい。約100℃を狙えて発制的に乾燥させると、基板上で粒子が凝集してしまい、基板と中間層の付着強度が低下するため、好ましくない。

[0011] 次に、本発明は、光熱媒類形成工程として、さらに基板を光始媒溶液に浸漬させた後、この基材を取り出して乾燥せせることにより、光熱媒を凝板に固定させる。光熱媒溶液としては、チタンが存在する溶液を用いる。また、チタンとともに、4~15 族に属す合溶液を用いることもできる。上記元素としては、特に、ジルニニクム等の4族、ホッ次帯等の13族、ケイ素等の14族、リン等の15 族が発生した15 族が2年とい

【0012】 このとき、チタンとの重量比は、特に限定されないが、酸化チタンと上記元素の酸化物の重量比が、かないた、数のや力が対しているの範囲(合計100重量 比)が好ましい、非量比が99%を超えると、得られる後合酸化物にした意養が郊れがましくない、一方、30%未満だと、光触媒活性が低下する傾向が現れるため、後会酸化物にした意養が郊れがましくない。かり5~50対約5~50の範囲がより好ましい。大地域が高速は、チタンのアルコキンド溶液または「00音有スラリーを用いることが好ましい。また、チタン以外の上記元素も、アルコキンド溶液または酸化物含有スラリーを用いることが好ましい。アルコキンドは酸化物含有スラリーを用いることが好ましい。アルコキンドは上記と同時は、メチル路、エアル高、プロビル基まだはオチル路を有するものが好ましい。

[0013] 乾燥は、特に限定されないが、約0~10 パノール(i−C3H7OH)を混合し、室温で10分間 0℃、好ましくは約10~30℃の常温で、約1分~2 50 に渡り攪拌して溶液Bを得た。そして、この溶液Aを溶

4時間に譲って風乾させるのが好ましい。約100℃を 超えて強制的に乾燥させると、基板上で光約煤空行が最 長してしまい、中間層と光絶煤層の付着強度が低下し好 ましくない。乾燥後、基板を規成しても良いし、規成し なくても良い。焼成温度は、特に限定されないが、約2 0~60℃の範囲で、約1~10時間の範囲で行う とかできる。

[0014] 光触媒層の厚さは、特に限定されないが、約0.01~ $10\mu$ の範囲が好ましく、特に、約0.01~ $10\mu$ の範囲が好ましく、特に、約0.01~ $10\mu$ の範囲がリジましい。原度が約0.01 $\mu$ m未満だと薄すぎて、光触媒活性を十分に発揮できないおそれがある。一方、約 $10\mu$ mを超えると厚くなりすぎて、光触媒層が範囲するおそれがあり、またこれ以上限厚を増加させても光触媒性能に変化はないため好ましくない。

【0015】上記してきたように、比表面積の小さいが ラスやステンレスなどの基板に対しても、基板と光触媒 層との間に、比表面積が大きく、光触媒活性の他下には 寄与しない中間層を設けることにより、光触媒調が強固 に付着し、高い光触媒活性を有する光触媒組持物を得る ことができる。このような光触媒組持物は、例えば、エ アコンの室内根または室外根中に用いることで、悪臭成 分及びかど、脚窗の実態を確認させることができる。 また、排水処理装置や焼却炉などにも用いることができ き、黒臭成分の他、NOxや炭化水素等を浄化させることができる。

# [0016]

実施例1

【実施例】以下、本発明の実施例および比較例について 説明する。

# 1. コート型基材の調製

先ず、P Y R E X 登録能標)製ガラス基材(15 mm × 6 mm×1 mmの板状、比表面積0.01 m²/ g) を温度約4.5 mo I / I のテトラエトキンシラン(5 i (Oc 1 Hs) 4) に浸漬し、引き上げ後、室温で乾燥させた。さらに、このガラス基材を、5 0 0 でで3 h (昇温速度:10 0 ℃ / h) の炉成を施して、基材と光触域の中間硬となる酸化ケイ素(5 i Oz)を、基材表面に膜厚0.1 μmで形成させたコート型基材1を得1を

# 【0017】2<u>光触媒溶液の調製</u>

失ず、9. 5mlのテトライソプロボキシチタン (Ti (Oi-C3Hr)4)と、0. 53mlのテトラエトキ シシラン (Si (OC2Hs)4)と、10mlのイソプ ロバノール(i-C3HrOH)を混合し、室温で10分 間冷波り振拝して、TiO/SiO295/5重量版 水=1/100体積比)と385. 3mlのイソプロ バノール(i-C3HrOH)を混合し、室温で10分間 に渡り振性に入り出りを振力している。 に渡り振性に入り出りを混合し、室温で10分間 に渡り振性に入り出りを混合し、室温で10分間 に渡り振性に入ります。 液Bに添加した後、室温で2時間に渡り攪拌して得られ た溶液をTiO2-SiO2光触媒溶液1とした。

# 【0018】3. コート型光触媒の調製

先ず、コート基材1を光触媒溶液1に浸漬して、引き上 げた後、室温で乾燥させた。さらに、このコート基材1 を500℃で3h (昇温速度:100℃/h) の焼成を 施して、光触媒層となるTiO2-SiO2を、中間層上 に膜厚0、1 μmで形成させたコート型光触媒を得た。 これを実施例1とした。

# 【0019】実施例2

実施例1の光触媒溶液の調製にて、溶液Aを溶液Bに加 える代わりに、溶液 A を 8 0 ℃~9 0 ℃の水に添加して 加水分解させることによって、TiO2-SiO2前駆体 スラリー1を得た。このスラリー1を、光触媒溶液1の 代わりに用いること以外は、実施例1と同様にして、コ ート型光触媒を得た。これを実施例2とした。

# [0020] 実施例3~10

実施例1及び2のコート型基材の調製において、ガラス 基材の代わりに、SUS304、SUS310、PE製 及で PP製の基材 (それぞれ比表面積 0.02、0.0 20 キシシラン (Si (Oi-C3H7)4)、リン酸トリメ 5、0.03、0.03m2/a)を用いること以外 は、実施例1及び2と同様にして、コート型光触媒をそ れぞれ得た。これらを実施例3~10とした。なお、P E製及びPP製の基材を用いる際、各々の焼成工程は除 いた。

#### [0021] 実施例11~24

実施例1及び2のコート型基材の調製にて、テトラエト キシシラン (Si (OC2Hs) 4) の代わりに、テトラ メトキシシラン (Si (OCH<sub>3</sub>)<sub>4</sub>)、テトライソプロ キシチタン (Ti (OC2Hs) 4)、テトライソプロポ キシチタン (Ti (Oi-C3H7)4)、リン酸トリメ チル (PO (OCH3) 3) 、トリメトキシボラン (B (OCH<sub>3</sub>)<sub>3</sub>)、ジルコニウムテトライソブトキシド (Zr (Oi-C4H9) 4) を用いて得たコート型基材 2~8を用いること以外は、実施例1及び2と同様にし て、コート型光触媒をそれぞれ得た。これらを実施例1 1~24とした。

## 【0022】 実施例25~34

/SiO2の重量比を、90/10、80/20、70 /30、60/40及び50/50に代えたこと以外 は、実施例1及び2と同様にして、コート型光触媒をそ れぞれ得た。これらを実施例25~34とした。

## 【0023】実施例35~46

実施例1及び2のコート型基材の調製において、中間層 であるSiO2の膜厚が0.2、0.3、0.5、1.

 0、5.0、10.0μmに代えて得られたコート型基 材9~14を用いたこと以外は、実施例1及び2と同様 にして、コート型光触媒をそれぞれ得た。これらを実施 例35~46とした。

# 【0024】実施例47~58

実施側1及び2のコート型光触媒の調製において、光触 媒層であるTiO2-SiO2の膜厚が0.2、0.3、 0. 5、1、0、5. 0、10. 0 μmに代えること以 外は、実施例1及び2と同様にして、コート型光触媒を 10 それぞれ得た。これらを実施例47~58とした。

# 【0025】実施例59~62

実施例1及び2において、各々の焼成温度を300℃と 400℃に代えたこと以外は、実施例1及び2と間様に して、コート型光触媒をそれぞれ得た。これらを実施例 59~62とした。

## [0026] 実施例63~72

実施例1及び2の光触媒溶液の調製にて、テトラエトキ シシラン(Si(OC2Hs)4)の代わりに、テトラメ トキシシラン (Si (OCH3) 4)、テトライソプロポ チル(PO(OCH3)3)、トリメトキシボラン(B (OCH3) 3) 、ジルコニウムテトライソブトキシド (Zr (Oi-C4H9)4)を用いて得た光触媒溶液3 ~7を用いること以外は、実施例1及び2と同様にし て、コート型光触媒を得た。これらを実施例63~72 とした。

## [0027] 比較例1~2

実施例1及び2のコート型光触媒の調製にて、中間層を 形成させず、ガラス基材をそのまま光触媒溶液に浸漬さ ポキシシラン (Si (Oi-C3H7)4)、テトラエト 30 せたこと以外は、実施例1及び2と同様にして、コート 型光触媒を得た。これらを比較例1、2とした。

### 【0028】コート性評価試験

実施例1~72及び比較例1、2の光触媒のコート性を 確認するため、コート型光触媒の表面を指で擦り、コー ト層が剥離するか否かを定性的に評価した。その結果を 表1~3に示す。光触媒層と基材との間に中間層を設け た実施例1~72は指で擦ってもコート層は剥離しない **ことが確認できた。また、コート層の膜原硬度をJIS** K5400に準拠した鉛筆による手かき法により測定 実施例1及び2の光触媒溶液の調製において、TiO2 40 した。その結果を表1~3に示す。基材と光触媒層の間 に中間層を設けた実施例1~72は、中間層の無い比較 例1、2に比べて、硬度の高い鉛筆でも膜に傷が付かな かったことから、光触媒層が強固に固着していることが 確認できた。

[0029]

【表1】

		光烛片				4	( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )			コート件	平在结果
	光触媒 溶液No.	光触媒組成 ()内は置量比	(µm)	焼成条件	□─→型 基材No.	組成	鉄厚 (μm)	焼成条件	基材 材質	指で振る	鉛筆硬度
実施例1	1	TiO2-SiO2(95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	0	5H
実施例2	2	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	Ö	4H
実施例3	1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO <sub>2</sub>	0.1	500°C × 5h	SUS304	ō	5H
実施例4	_1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	. 1	SiO <sub>2</sub>	0.1	500°C × 5h	SUS310	O.	5H
実施例5	1	TIO,-SIO,(95;5)	0.1	-	1	SiO,	0,1	-	PE	ō	614
実施例6	1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95;5)	0,1	-	1	SiO.	0.1		PP	ŏ	5H
実施例7	2	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95.5)	0,1	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	SUS304	ŏ	5H
実施例8	2	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0,1	500°C × 5h	SUS310	ō	5H
実施例9	2	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	-	1	SiO <sub>2</sub>	0.1		PE	Ô	5H
実施例10		TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	-	1	SiO,	0.1	-	PP	ŏ	4H
実施例11		TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95.5)	0.1	500°C × 5h	2	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ō	5H
実施例12		TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	3	SiO,	0.1	500°C x 5h	ガラス	ŏ	5H
突施例13		TiO,-SiO,(95.5)	0.1	500°C × 5h	_	TiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
实施例14		TIO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	5	TIO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例15		TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	6	P,O,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例16	1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95.5)	0.1	500°C × 5h	7	B,O <sub>3</sub>	0.1	500°C × 5h	ガラス	Ö	4H
実施例17		TiO2-SiO2(95:5)	0.1	500°C × 5h	- 8	ZrO,	0,1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
奥斯例18	2	TiO2-SiO2(95:5)	0.1	500°C × 5h	2	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	č	4H
実施例19	2	TiO2-SIO2(95:5)	0,1	500°C × 5h	3	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例20	2	TiO2-SiO2(95:6)	0,1	500°C × 5h	4	TiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例21	2	TiO2-SiO2(95:5)	0,1	500°C × 5h	5	TiQ.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例22	2	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	6	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例23	2	TiO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	7	B,O,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例24	2	TiO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	8	ZrO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	4H

[0030] [表2]

		光触媒					P(1)/E	基料	コート性	<b>弹伍枯果</b>	
	光触媒 溶液No.	光触媒組成 ()内は重量比	(μm)	焼成条件	그-나벨 홀쳐No.	組成	東厚 (µm)	領成条件	研算	指で接る	鉛筆硬度
実施例25		TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (90:10)	0.1	500°C × 5h		SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	0	5H
実施倒26	1	TiO2-SIO2(80:20)	0.1	500°C × 5h	1	SIO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	Ö	511
寅施例27	-	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (70:30)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0,1	500°C × 5h	ガラス	Ô	4/1
実施例28	1	TiO2-SIO2(60:40)	0,1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例29		TiO2-SiO2(50:50)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	Ö	5H
実施例30	2	TiO2-SiO2(90:10)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	8H
実施例31	2	TiO,-SiO,(80:20)	0.1	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	Õ	4H
実施例32	2	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (70:30)	0.1	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例33	2	TiO,-SiO,(60:40)	0.1	500°C × 5h		SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例34	2	TIO2-SiO2(50:50)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例35	1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	9	SiO,	0.2	500°C × 5h	ガラス	Õ	4H
実施例36	1	TiO2-SiO2(95:5)	0.1	500°C × 5h	10	SiO,	0.3	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例37	1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0,1	500°C × 5h	11	SiO,	0.5	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例36	1	TiO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	12	SiO.	1,0	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例39	1	TiO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	13	SiO.	5.0	500°C × 5h	ガラス	ŏ	6H
実施例40	1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	14	SiO,	10.0	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例41	2	TIO2-SIO2(95:5)	0.1	500°C × 5h	9	SiO,	0.2	500°C × 5h	ガラス	Ó	5H
実施例42	2	TIO,-SIO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	10	SiO,	0.3	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
奥斯例43	2	TIO2-SiO2(95:5)	0.1	500°C × 5h	11	SiO,	0.5	500°C × 5h	ガラス	Ö	5H
実施例44	. 2	TIO2-SiO1(95:5)	0.1	500°C × 5h	12	SIO,	1.0	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
奥施例45	2	TiO2-SiO2(95:5)	0.1	500°C × 5h	13	SiO,	5.0	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例48	2	TiO,-SiO,(95.5)	0.1	500°C × 5h	14	SiO,	10.0	500°C×5h	ガラス	Ö	5H

[0031] 【表3】

		光強進層					中間 悪	¥.87	1 7-ht	経過終度	
	光触媒 溶液No.	光触媒組成 ( )内は重量比	(#m)	姚成条件	コート型 基材No.	組成	膜厚 (um)	焼成条件	村質	指で接る	鉛筆硬度
実施例47	_	TiO2-SiO2(95:5)	0.2	500°C×5h	1	SiQ,	0.1	500°C × 5h	ガラス	0	6H
実施例48		TiO2-SiO2(95:5)	0.3	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ō	5H
奥施例49	1	TIO2-SiO2(95:5)	0.5	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	4H
実施例50	1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	1,0	500°C × 5h	1	SiQ.	0.1	500°C x 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例51	1	TiO2~SiO2(95:5)	5.0	500°C × 5h		SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例52	1	TiO,-SiO,(95:5)	10.0	500°C×5h	1	SiO.	0.1	500°C x 5h	ガラス	ŏ	6H
実施例53	2	TiO,-SiO,(95:5)	0.2	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例54	2	TiO,-SiO,(95:5)	0.3	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例55	2	TiO,-SiO,(95:5)	0.5	500°C × 5h	1	SiQ.	01	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例58	2	TiO <sub>2</sub> -SIO <sub>2</sub> (95:5)	1.0	500°C × 5h	1	SiQ,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	SH
実施例57	2	TiO,-SiO,(95;5)	5.0	500°C × 5h	1	SiQ.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	SH
実施例58	2	TiO2-SiO2(95:5)	10.0	500°C × 5h	1	SiQ,	0.1	500°C × 5h	ガラス	o	5H
実施例59	1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0,1	300°C × 5h	15	SiO,	0.1	300°C × 5h	ガラス	ŏ	6H
実施例60	1	TiO2-SiO2(95:5)	0.1	400°C×5h	18	SiO,	0.1	400°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例61	2	TiO2-SiO2(95:5)	0.1	300°C × 5h	15	SiO.	0.1	300°C × 5h	ガラス	Ó	SH
実施例62	2	TiO2-SiO2(95:5)	0.1	400°C × 5h	16	SiO.	0.1	400°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例63	3	TiO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	614
実施例64	4	TiO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	4H
実施例65	5	TiO,-P,O,(95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例86	6	TIO,-B2O,(95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	5H
実施例67	7	TiO <sub>2</sub> -ZrO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	Ö	4H
実施例68	3	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	Ö	6H
実施例69	4	TIO,-SIO,(95:5)	0,1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ò	5H
実施例70	. 5	TiO <sub>2</sub> -P <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (95:5)	0,1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	6H
実施例71	6	TiO <sub>2</sub> -B2O <sub>3</sub> (95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO,	0.1	500°C × 5h	ガラス	ŏ	4H
実施例72	7	TiO,-ZrO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	1	SiO.	0.1	500°C × 5h	ガラス	Č	5H
比較1		TiO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C x 5h	-		-	-	ガラス	×	48
比較2	2	TiO,-SiO,(95:5)	0.1	500°C × 5h	-		-		ガラス	- x	5B

# 【0032】活性評価試験

実施例1~72及び比較例1、2の光触媒の活性を確認するため、表4に示す条件下でアセトアルデヒドを分解する時に生成するCO2週度を調べることにより、分解活性を評価した。その結果を表5、6に示す。実施例1~72は比較例1、2と速色の無い高いアセトアルデヒド分解活性を示したことから、中間層が活性低下には考与していないことが確認できた。

反応器	流通式反応器			
UV照射面積	19.8cm²			
UV強度	3mW/om²			
ガス流量	100ml/min			
使用ガス	CH <sub>a</sub> CHO:180ppm #EAir:Bese			

[0033]

【表4】

30 【0034】 【表5】

그-+호	光触媒組成	中間層組成	基材料質	活性評価結果
光触媒No.	()内は重量比			(出口CO <sub>2</sub> 濃度、ppm)
実施例1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiOz	ガラス	350
実施例2	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO2	ガラス	342
実施例3	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiOz	SUS304	361
実施例4	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	SUS310	360
実施例5	TIO2-SIO2(95:5)	SiO <sub>2</sub>	PE	357
実施例6	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95;5)	SiO <sub>2</sub>	PP	357
実施例7	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO,	SUS304	351
実施例8	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	SUS310	352
実施例9	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:δ)	SiOz	PE	350
実施例10	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	PP	355
実施例11	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95;5)	SiO,	ガラス	340
実施例12	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	363
実施例13	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	TiO <sub>2</sub>	ガラス	359
実施例14	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	TIO2	ガラス	349
実施例15	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	P <sub>2</sub> O <sub>8</sub>	ガラス	348
実施例16	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95.5)	B <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	ガラス	372
実施例17	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	ZrO <sub>2</sub>	ガラス	340
実施例18	TiO2-SiO2(95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	349
実施例19	TiO2-SiO2(95:5)	SiO,	ガラス	355
実施例20	TiO2-SiO2(95:5)	TiO <sub>2</sub>	ガラス	340
実施例21	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:δ)	TiO <sub>2</sub>	ガラス	350
実施例22	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	P <sub>I</sub> O <sub>6</sub>	ガラス	355
実施例23	TiO2-SIO2(95:5)	B <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	ガラス	340
実施例24	TiO <sub>2</sub> ~SiO <sub>2</sub> (95:5)	ZrO,	ガラス	354
実施例25	TiO,-SIO,(90:10)	SiO,	ガラス	355
実施例26	TiO2-SiO2(80:20)	SiO,	ガラス	357
実施例27	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (70:30)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	362
実施例28	TiO2-SiO2(60:40)	SIO <sub>2</sub>	ガラス	355
実施例29	TiO2-SIO2(50:50)	SiO,	ガラス	340
実施例30	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (90:10)	SiO,	ガラス	350
実施例31	TiO,-SiO,(80:20)	SiO,	ガラス	355
実施例32	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (70:30)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	340
実施例33	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (60.40)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	350
実施例34	TiO2-SiO2(50:50)	SiO,	ガラス	355
実施例35	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	340
実施例36	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiOz	ガラス	350

[0035] 【表6】

	光触媒組成	中間層網球	基材材質	活性評価結果
光触媒No.	( )内は重量比			(出口CO,建度、ppm)
実施例37	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95;5)	SiO,	ガラス	359
実施例38	TiO,-SiO,(95:5)	SiO,	ガラス	352
実施例39	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO,	ガラス	350
実施例40	TiO2-SiO2(95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	356
実施例41	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SIO <sub>2</sub>	ガラス	361
実施例42	TiO2-SiO2(95.5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	350
実施例43	TiO2-SiO2(95:5)	SIO2	ガラス	355
実施例44	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95.5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	340
実施例45	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95;5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	353
奥施例46	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	354
実施例47	TiO2-SiO2(96:5)	SIO,	ガラス	340
実施例48	TIO1-SIO1(85:5)	SiO,	ガラス	350
実施例49	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SIO2	ガラス	349
実施例50	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	340
実施例61	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	348
実施例52	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	355
実施例53	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SIO <sub>2</sub>	ガラス	340
実施例54	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	349
実施例55	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	355
実施例58	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SIO2	ガラス	355
実施例57	TIO2-SIO2(95:5)	SiOz	ガラス	350
実施例58	TiO <sub>2</sub> -SIO <sub>2</sub> (95:5)	SiOz	ガラス	356
実施例59	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	358
実施例60	TIO2-SIO2(95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	360
実施例61	TiO2~SiO2(95:5)	SIO2	ガラス	365
実施例62	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO	ガラス	340
実施例63	TiO2-SiO2(95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	383
実施例84	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	355
実施例85	TiO <sub>2</sub> -P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> (95:5)	SIO <sub>2</sub>	ガラス	340
実施倒86	TiO <sub>2</sub> -82O <sub>3</sub> (85:5)	SiO,	ガラス	354
実施例67	TiO <sub>2</sub> -ZrO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	355
実施例68	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95.5)	SiOz	ガラス	357
実施例69	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	350
実施例70	TiO <sub>2</sub> -P <sub>2</sub> O <sub>8</sub> (95:5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	355
実施例71	TiO <sub>2</sub> -B2O <sub>3</sub> (95:5)	SiOz	ガラス	341
実施例72	TiO <sub>2</sub> -ZrO <sub>2</sub> (95.5)	SiO <sub>2</sub>	ガラス	350
比較1	TiO <sub>2</sub> -SiO <sub>2</sub> (95.5)	-	ガラス	349
H:802	TiO,-SIO,(95:5)		ガラス	351

固に付着させることができ、かつ高い光触媒活性を維持 [0036] 【発明の効果】上記したように、本発明によれば、比表 30 することができる光触媒の固定化方法および多段層型の

面積の小さいガラスやステンレス等の基材に対しても強 光触媒担持物を提供することができる。

# フロントページの続き

(51) Int. CI. 7		識別記号	FI		テーマコード(参≉	考)
C 0 3 C	17/34		C 0 3 C	17/34	Z 4K044	
C 2 3 C	20/08		C 2 3 C	20/08		
	28/00			28/00	D	
	28/04			28/04		
	30/00			30/00	C	
					D	

(9)

Fターム(参考) 4D075 AB03 AB33 AB36 AE16 AE19 BB24Y BB24Z BB93Y BB93Z CA13 CA34 CA45 DA06 DB04 DB13 DB36 DC05 DC18 EA08 EA12 EB05 EB43 EB47 EC02 FC08 4F100 AA17B AA20B AA20C AA21B AA21C AA27B AB04A AG00A AHO6B AHO8B AKO1A BAO3 BAO7 BA10A BA10C EH462 10 JC00 JL06 JL08C 4G059 AA01 AC30 EA04 EA05 EB07 GA01 GA04 GA12 4G069 AA03 AA08 BA02B BA04A BAO4B BAO5B BA48A EA08 ED03 EE01 EE06 FB09 4K022 AA02 AA03 AA13 AA41 BA04 BA15 BA16 BA20 BA22 BA26 BA33 BA36 DA06 DB01 DB02 DBO3 FA01 20 4K044 AA02 AA12 AA16 AB10 BA12 BA14 BA17 BA18 BB03 BB04

CA62

BB05 BB06 BC02 CA15 CA53